



令和5年度 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 教職員交流を通じた国際比較研究事業



子どもの哲学 (p4c)
ハワイ・みやぎのデータサイエンスによる発展的プロジェクト
国立大学法人 宮城教育大学



事業の問題意識

- 2022年ウクライナで戦闘が継続し、国内外のあらゆる領域で利害対立が先鋭化している。社会的包摂と調和のとれた共生の実現のためには、コミュニティにおける合意形成と意思決定が必要であり、そのための前提として、コミュニティでの対話・議論の資質能力が不可欠となる。
- 日本の初等中等学校で児童生徒は、こうした民主的で哲学的な対話・議論の資質能力を磨く機会をどれほど与えられてきていない。
- 日本の初等中等学校の教師は、児童生徒を対話・議論させるファシリテーションの理論と実践を学ぶ機会に恵まれていない。

⇒社会的包摂と調和のとれた共生の実現のための民主的な対話・議論の本質を理解し、教室で実践するための教員養成や現職教員研修が必要であると考え、本事業の提案に至った。

事業の背景

企画提案者は、子ども主体の対話を教室で効果的に実現する世界的教育運動「子どもの哲学（Philosophy for Children）」通称「P4C」の調査を始め、様々な形で世界中に展開しているP4Cの中でも、ハワイで開発されおよそ25年の実績のあるp4cハワイバージョンの有効性が高いことを見出し、7年間実践と研究の交流を重ねている。

【参考】子どもの哲学P4Cは、1970年代に米国のマシュー・リップマンが開発し、北南米、豪州、欧州、アジア、アフリカなど世界中で展開されている。日本は子どもの哲学対話後進国である。日本でも、学習指導要領改訂による「主体的・対話的で深い学び」や「考え議論する道徳」の施策も契機となり企画提案者たちがp4cハワイと連携を深めてきた経緯もけん引し、P4Cへの注目と実践が次第に着実に広まりつつある。

日本の先進的、特徴的な取組及び課題：企画提案者たちの先進的取組は、p4cハワイ・みやぎバージョンを、データサイエンスし、エビデンス・ベースドに推進する。これは世界中のP4C実践研究で最も弱く乏しかった点の改善である。

実践者と研究者のコラボレーションにより、質問紙や言葉データの計画的収集、分析、発信により、p4cの教育効果や学力との相関などを多面的に可視化し、実践した子どもや教師に成長の手ごたえをフィードバックし、導入に躊躇する教師や学校に、判断のための客観的データを提供し普及する取組行う。

事業実施体制

p4cスクールリーダー研修チーム運営委員会は、教職大学院とハワイ大学p4c Uehiro Academy for Philosophy and Ethics in Educationと連携しながら、研修を立案し組織運営する。研修参加者は宮城県の教育委員会から派遣されている教職大学院の現職教員、および宮城県教育委員会、仙台市教育委員会等の教員である。それらの教員は、自分の学校・学級でp4cの実践を行い効果を検証する。ハワイ大学およびハワイのp4cスクール小中高等学校を訪問し、p4cについて現地で研修を受けるとともに、スクールリーダーとして若手教員の協力を得て学校現場でp4cを実践し、教育的成果と効果を共有する。



事業のプロセス

日時	事業プロセス
10月1日～	事前調査：研修チームメンバーの現場でp4cを実施し、児童生徒の対話の言葉データやアンケート調査を行い、スキルアップ以前のp4cデータを収集した。また、データサイエンス初歩について研修・学習を開始した。
10月29日～ 11月4日	研修チームは、p4cハワイの理念と実践をp4cアカデミーの協力により、実践的に体得した。
11月～2月	チームメンバーは、スクールリーダーとして所属校でp4cを普及伝授。対話データと振り返りシートなどで児童生徒と実践者の事後評価結果を収集した。
2月中	p4cアカデミーによる研修終了後、事前から事後にかけてのデータ分析を行い、児童生徒や研修に参加した実践者の変化成長を可視化した。
2月23日	p4cハワイ研修を主催したp4cアカデミーの研究者にデータ分析をフィードバックし意見交換した。また、新たに参加者を加えてp4cの研修を行った。

ハワイ現地研修

参加教職員14名
 (宮城県・仙台市派遣教
 員および教育委員会)

Date	Time	Contents
2022/10/29	10:00-15:00	p4cHI Lesson Study Seminar(Zoom Session)
2022/10/31	8:20	Arrive at Waikiki Elementary
	8:30-9:30	Waikiki School Halloween parade
	10-10:40	Join Nannette Ganotisi and Emiko George for their sessions with students (visiting teachers can lead activities)
	13:15-16:00	Join Nannette Ganotisi and Emiko George for their sessions with students (visiting teachers can lead activities).
	16:00-17:30	Join Dr. J's PHIL 492 class at UHM
2022/11/1	8:00-12:00	Meeting/Discussion at UH Uehiro Academy
2022/11/2	8:00	Arrive at Waikiki Elementary, meeting with Principal
	8:00-9:40	Split into three groups to participate in p4c sessions:
		Group A visits Ms. Amy Wada (4th gr)
		Group B visits Ms. Jolyn Ikeda (2nd gr)
		Group C visits Mr. Julian Walstrom (4th gr)
		Recess
	10:00-11:45	Split into three groups to participate in p4c sessions:
		Group A visits Ms. Ann Suphan (2nd grade)
		Group B visits Ms. Ann Davis (1st gr)
		Group C visits Staci Fong (2nd gr)
		Lunch and reflection time
		Split into three groups to participate in p4c sessions:
	12:30-13:15	Group A visits Mr. Jason Marvel (5th gr)
		Group B visits Ms. Courtney Tawata/Ms. Jenna Kunihiro (5th gr)
		Group C visits Mr. Matt Lawrence (5th gr)
		Informal Debrief with teachers who do not have Parent Teacher Conferences
	16:00	Leave Waikiki School
	16:10-18:00	Join Dr. J's PHIL 492 Class at UHM
2022/11/3	8:15-12:00	Arrive at Ka'elepulu Elementary School
	8:30	Split into three groups to participate in p4c sessions:
		Group A visits Ms. Paige Banninger (5th gr)
		Group B visits Ms. Makenzie Carpenter (4th gr)
		Group C visits Ms. Stephanie Taira (2nd gr)
		Recess and reflection with teachers
		Free for lunch and reflection
	12:45	Arrive at Kailua High School
	12:55-17:00	Join Ms. Kelley Espinda for p4c session (Japanese Language and Culture)
		Possible reflection time with teachers/Free
	18:00	Possible beach potluck at Queen's Beach



10月31日/11月1日 ハワイ大学p4cクラス



JAMP
Just & Minute Present

LMO
Let's Move On

Griff

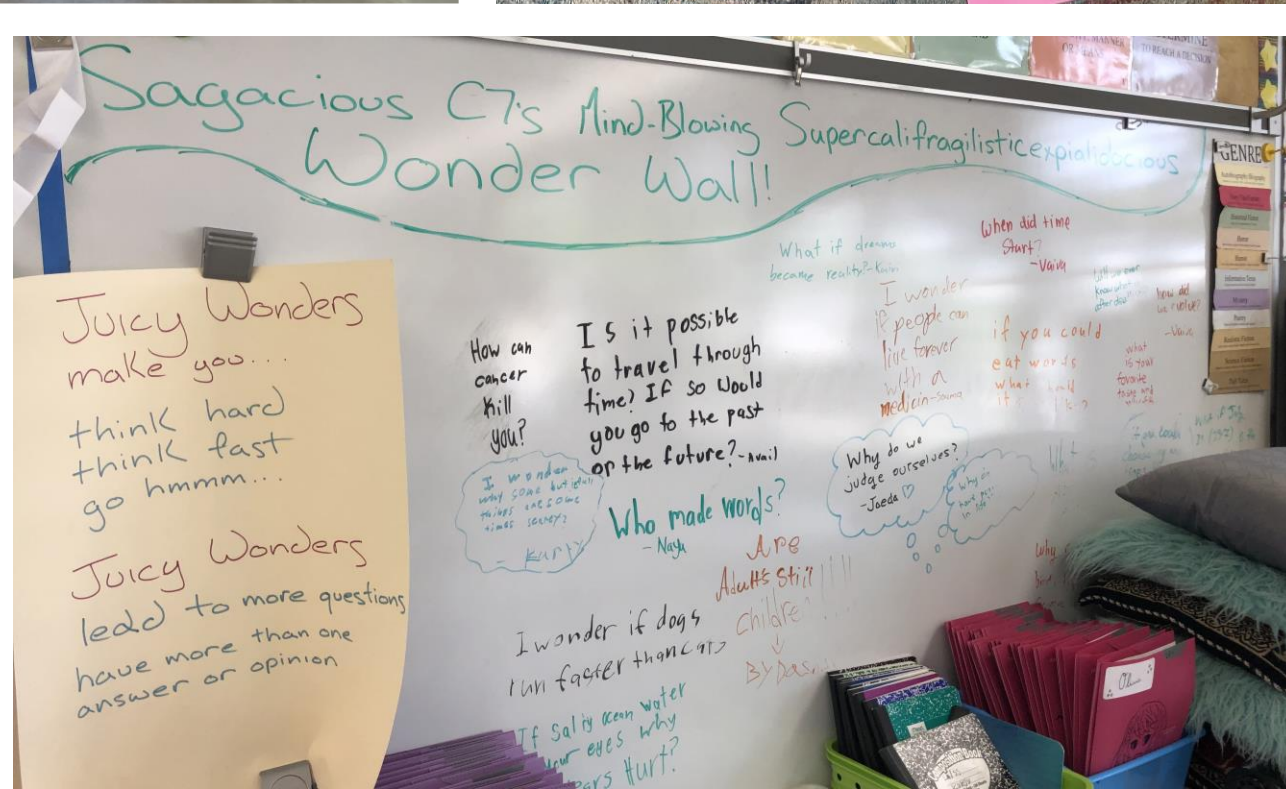
Kei

Hana

Lu



11月2日 ワイキキ小学校教職員交流



11月3日カイルア高校



カエルズル小学校



 Taketo Tabata	 Tomonori ICHINOSE	 honzu manami	 Benjamin Lukey	 Chad Miller
 Junya KUBO	 Noboru Maruyama	 Hanae ITAGAKI	 Akinobu Shida	 日野大治@宮城教育大学教職大学院
 石井恵子	 chikako maruyama	 武山幸一郎	 土谷和奏	 Soichi Kawasaki
 佐竹夢	 Thomas Jackson	 sasaki	 Rikako SUZUKI	 野沢雪音

2023年2月23日 シンポジウム

データサイエンスによる効果の検証事例（生徒）

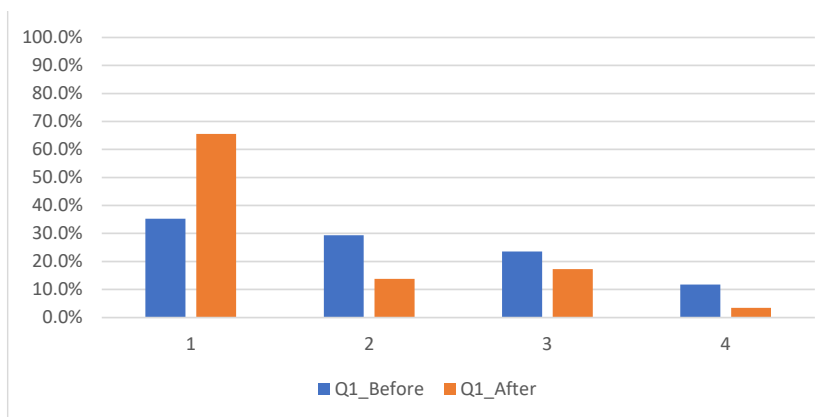
Before n=34, After n=29

Choice 1 means “Yes”, 2 means “Partly Yes”, 3 means “Partly No”, and 4 means “No”.

1 and 2, the left side of the graph is a favorable result.

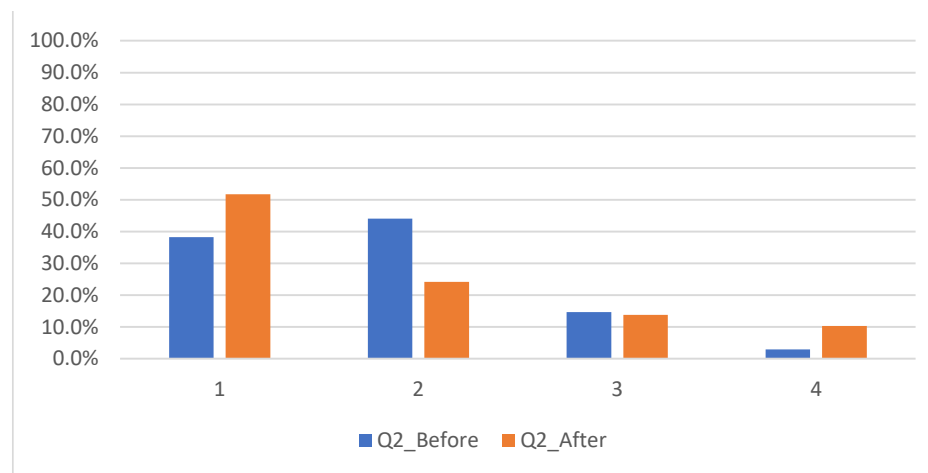
Blue bar means Before and red means After.

Q.1 Can you express your opinions freely in a safe and secure manner during discussions?



✓ Safety has increased dramatically.

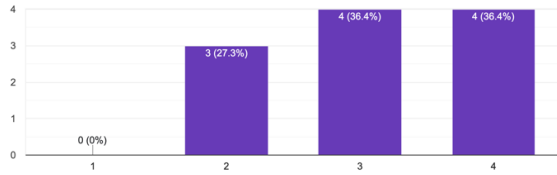
Q.2 In the discussion, do you understand what you are discussing, accept your friend's thoughts (similar or different), and convey your own thoughts clearly?



データサイエンスによる効果の検証事例（教員）

Q.1 I have a concrete image of interactive and deep learning.

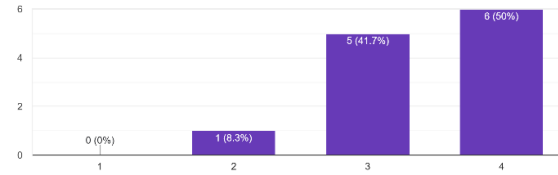
(1) 「主体的・対話的で深い学び」について具体的なイメージや理解をもつことはできますか
11件の回答



Before



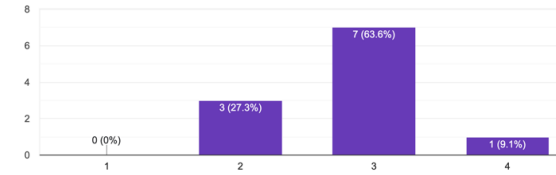
(1) 「主体的・対話的で深い学び」について具体的なイメージや理解をもつことができる
12件の回答



After

Q.2 I am confident in carrying out discussion in a safe and secure atmosphere.

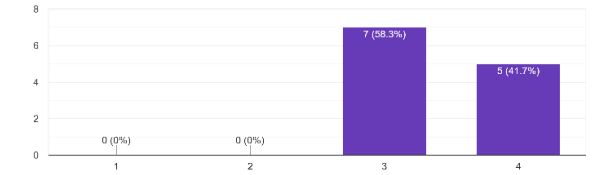
(2) 安心安全な雰囲気の話合い活動を実施する自信はありますか
11件の回答



Before



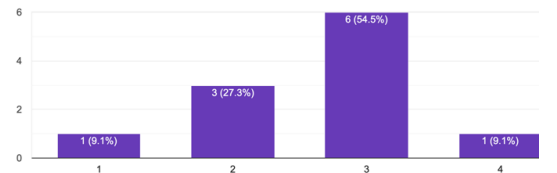
(2) 安心安全な雰囲気の話合い活動を実施する自信がある
12件の回答



After

Q.3 I am confident that I can create classes in which students proactively discuss with each other.

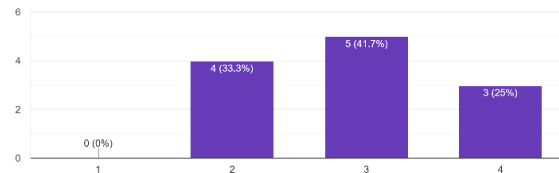
(3) 児童生徒同士が主体的に話し合う授業をつくる自信はありますか
11件の回答



Before



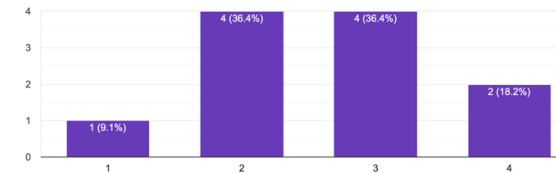
(3) 児童生徒同士が主体的に話し合う授業をつくる自信がある
12件の回答



After

Q.4 I can help my students deepen their discussion.

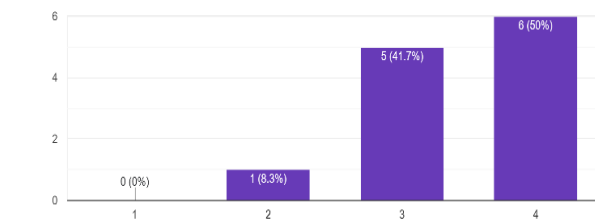
(4) 児童生徒の話合いを深めるのを援助することができますか
11件の回答



Before



(4) 児童生徒の話合いを深めるのを援助することができる
12件の回答



After



提言 1:教室におけるp4c導入を促進するべきである。

- 民主的で哲学的な対話・議論の資質能力を磨くために教室にp4cの機会を導入することは有効である（2月23日シンポジウム意見）。
- p4cは日本の教室で実践されているディベートや賛成・反対の意見を求めたりする方法ではなく、ゴールや結論を求めない議論の方法である。（2月23日シンポジウム意見）。
- p4cでは、生徒の議論に飛躍や間違いがみられるがそこに意味があるということがわかった（2月23日シンポジウム意見）。
- P4cでは、どの生徒も参加できることを保証している。だれでも今考えているところで考えていいため、すべての生徒が安心できる（2月23日シンポジウム意見）。
- p4cはまさに安心して話せる安心安全な対話の雰囲気を出せる効果が最も高い（事前事後調査結果）。
- p4cでは、問いを全員で考える。コミュニティボールを全員で作りあげ、共有することで参加感と達成感を創出している（2月23日シンポジウム意見）。
- p4cでは話すことよりも聞くことが大事であり、リスニングにハイライトされている。p4cを通して傾聴する力をはぐくむことができる（2月23日シンポジウム意見）。
- p4cをすることで、読むときには『なぜ?』と考えながら読むようになり、書くときには理由を付け加えながら書くようになった（ハワイ研修時間聞き取り）。
- p4cで行われているマインドフルネスの時間と考え方を日本でも実践導入すべき。日本では、教員が命令して生徒に沈黙を強制する時間になっている（2月23日シンポジウム意見）。

提言 2:教員養成にp4cを導入するべきである。

- 教員はp4cの実践を通して「主体的・対話的で深い学び」への具体的なイメージをいっそう持てるようになり、「児童生徒と共に考え、共に悩む」ことがいっそうできるようになり、「話し合いによって、児童生徒の意見に新しい発見がある」といっそう感じるようになり、「リーダーとして、学校や学級を元気にすることが出来る」といっそう感じるようになってきている（事前事後調査結果）
- どの（教科の）時間にp4cをするかは、先生たちに自由度があるとのことだった。ある程度の自由が保障されていることが、先生たちの創造性を高め、やる気を喚起させている（ハワイ研修時間聞き取り）。
- p4cでは一人一人の心に話し掛ける話し方の習得が重要である（ハワイ研修時間聞き取り結果）。
- 学校のミドルリーダー研修では「やり方」を教えることがほとんどで理念について話し合う時間が与えられていない。p4cを通して理念や哲学を語り合うことの大切さについて考えさせられた（ハワイ研修時間聞き取り）。
- ハワイでは校長先生が教育委員会とのやり取りの中で、「p4cほど考えることのできる教科はあるのか」と問うことによって、p4cへの理解を浸透させている（ハワイ研修時間聞き取り）。
- 小中高等学校と継続してp4cで語り合い考える習慣をつけるのが望ましい（2月23日シンポジウム意見）。

提言3：教職員間・保護者間・地域間の対話にp4cを導入すべきである。

- 高校のクラブ活動にp4cを導入してみたい。コーチと選手が 技術に関してディスカッションして、選手とコーチが並列の関係をつくりたい。（2月23日シンポジウム意見）
- 保護者懇談会でもp4cを導入してみたい。子どもの対話を促すだけでなく、先生同士や先生と保護者など多様な可能性が考えられる。（2月23日シンポジウム意見）
- 教育委員会と地域コミュニティとの対話においても、学校統廃合をめぐる対立する意見がある中で、権威性を打破し民主主義的に意見を提示する場面で、p4cが有効に機能した事例がある。（3月11日成果発表会意見）
- 最終提言：利害対立が先鋭化している今日、社会的包摂と調和のとれた共生の実現のためには、コミュニティにおける合意形成と意思決定が必要であり、そのために早い段階からp4cを学校教育に導入し、安心安全な環境で自由に自分の意見を言い、他者の意見を傾聴できる環境を創出する必要がある。

事業実施責任者 および参考文献

- 田端健人（2021）『子どもの言葉データサイエンス入門—jReadabilityの活用と検証—』パイディア出版.
- 本図愛実編著（2021）『グローバル時代のホールスクールマネジメント』ジダイ社.
- M.R.グレゴリー他編、小玉重夫監修、豊田光代・田中伸・田端健人訳者代表（2020）『子どものための哲学教育ハンドブック—世界で広がる探究学習—』東京大学出版会.
- 久保順也（2020）「p4cを実践する教員から見たその効果と課題」『宮城教育大学教職大学院紀要』第2号，21-28.
- P4cみやぎ出版企画委員会（2017）『子どもたちの未来を拓く 探究の対話「p4c」』東京書籍（田端健人共著）.
- 半沢裕太・田端健人・野坂実央（2021）「子どもの哲学対話データサイエンス—中学1年生言葉データの定期的な形態素解析による事例研究—」『宮城教育大学教職大学院紀要』第3号，79-93.
- 田端健人（2020）「教室での子どもの哲学対話—米国ハワイとみやぎの実践動向—」『教育学研究』第87巻第2号，61-68



名前	所属・職名	役割
田端健人	宮城教育大学教職大学院 教授	p4cスクールリーダー研修チーム委員長 事業実施責任者（研究担当） 研修責任者
本図愛実	宮城教育大学教職大学院 教授	p4cスクールリーダー研修チーム副委員長 個人情報管理責任者 広報業務担当者
市瀬智紀	宮城教育大学教育学部 教授	p4cスクールリーダー研修チーム事務局長（全体統括） 連携業務担当者 会計業務担当者
Dr. Ben Lukey	ハワイ大学 Uehiro Academy for Philosophy and Ethics in Education	p4cスクールリーダー研修および連携担当者
Dr. Thomas E. Jackson	ハワイ大学教育学部教授	p4cスクールリーダー研修および連携担当者
鈴木里佳子	宮城教育大学事務補佐員	本事業の調査補助事務担当者 会計業務担当者